

高校公民プリント (過去問類似)

日本の思想 No.4

名前

得点

/10

問1 江戸時代の思想において、死を人間にとって如何ともし難い不可避の出来事であり、死後は善悪の区別なく黄泉国へ赴くほかはないと考えた人物は誰か。彼は、儒教や仏教などの理屈によって死の悲しみを無理に克服しようとするのではなく、死を悲しいものとしてありのままに受け入れ、そのように心得ることに安心があったとした。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. 荷田春満 2. 本居宣長 3. 平田篤胤 4. 賀茂真淵

問2 江戸時代初期の儒学において、固定化された道德規範を批判し、個人の内なる良知に基づき、状況や立場 (時・処・位) に応じた適切な道德を実践することを重視して、日本における陽明学の祖となった人物は誰か。 (2023年 全国公立入試 類似)

1. 林羅山 2. 貝原益軒 3. 中江藤樹 4. 荻生徂徠

問3 徳川家康をはじめとする初期の将軍に仕え、幕府の儀礼や制度の整備に深く関わった朱子学者である。自己の慎みを保つ「持敬」を重視し、天と地が分かれているように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理であると説き、武家支配の正当性を理論づけた人物は誰か。 (2021年 全国公立入試 類似)

1. 頼山陽 2. 室鳩巢 3. 林羅山 4. 林鷲峰

問4 ルソーの『社会契約論』を翻訳紹介し「東洋のルソー」と称された思想家であり、人民が自ら闘い勝ち取る「回復的民権」に対し、君主から与えられる「恩賜的民権」を当時の日本においては守り育てていくべきだと説いた人物は誰か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. 徳富蘇峰 2. 内村鑑三 3. 中江兆民 4. 植木枝盛

問5 日本の思想家である和辻哲郎は、人間を単なる孤立した個人として捉える西洋的な見方を批判した。彼は、人間は他者との関係性において初めて真の自己として成立する共同体的な存在であると主張したが、このような人間のあり方を何と呼ぶか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 行為的直観 2. 風土的自己 3. 歴史的な身体 4. 間柄的存在

問6 明治政府が推進した政策に対し、地域の信仰の場である「鎮守の森」が伐採されることで、貴重な動植物の生態系や地域共同体が破壊されると主張し、エコロジー (生態学) の先駆的な視点から激しい反対運動を展開した、和歌山県出身の博物学者・民俗学者は誰か。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. 柳田国男 2. 中江兆民 3. 南方熊楠 4. 内村鑑三

問7 近世の武士の思想において、主君への奉公を全うすることを目指し、「武士道と云ふは、死ぬことと見つけたり」という一節で、生への執着を捨てて奉公に徹する覚悟を表現した、佐賀藩の山本常朝の口述をまとめた書物を何というか。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. 三日経 2. 風姿花 3. 五輪書 4. 葉隠

問8 江戸時代前期の思想家で、朱子学が説く「理」による厳格な道德規範を批判し、それが人間の自然な情愛を損ない、他者に対して冷酷で薄情な態度をもたらすと主張した人物は誰か。京都の堀川に私塾を開き、論語や孟子の原典に直接立ち返る方法論を提示した。 (2011年 全国公立入試 類似)

1. 山鹿素行 2. 中江藤樹 3. 荻生徂徠 4. 伊藤仁斎

問9 明治から昭和にかけて活躍した日本の哲学者は、西洋哲学の受容を超えて独自の思想体系を築いた。彼は、主観 (認識する自己) と客観 (認識される対象) がまだ分かれていない、感覚や意識の直接的な状態を重視し、これを何と呼んだか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 平民主義 2. 純粹経験 3. 国民主義 4. 主客合一

問10 主著『善の研究』において、主観と客観が対立する前の直接的な経験のあり方を重視し、自己と世界が一体となる「主客未分」の境地を説いた、京都学派の形成にも大きな影響を与えた近代日本の哲学者は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 三宅雪嶺 2. 西田幾多郎 3. 井上哲次郎 4. 和辻哲郎

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 2 本居宣長	儒教や仏教などの外来思想（漢意）を排し、日本古来の精神（古道）を追究する中で、死生観についても独自の考察を行った。死を人間にとって避けることのできない悲しい出来事としてありのままに受け入れ、死後は善悪にかかわらず黄泉国へ赴くという事実をそのまま認めることに安心を見出した。
問2	答え 3 中江藤樹	江戸時代初期、幕府の正学とされた朱子学が形式化していく中で、内面的な道徳実践を重視する陽明学が受容された。この人物は、時（時間）、処（場所）、位（立場）という具体的な状況に応じて、心の中の「良知」に従って行動すべきであると説き、日本陽明学の祖と称された。
問3	答え 3 林羅山	徳川家康らに仕えた朱子学者の林羅山は、自己の慎みを保つ「持敬」や、万物の本質を究める「窮理」を重視した。彼は、天地自然に上下があるように人間社会にも君臣や父子などの厳然たる身分秩序が存在することは自然の理（上下定分の理）であり、それが幕府の法度や社会の礼儀として現れるべきであると主張して、江戸幕府による支配を正当化した。
問4	答え 3 中江兆民	フランスの思想家ルソーの思想を紹介し、自由民権運動の理論的指導者となった中江兆民は、人民が自ら獲得する「回復的民権」と、君主から恩恵として与えられる「恩賜的民権」を区別した。彼は、当時の日本の現状においてはまず「恩賜的民権」を足がかりにして民権を育てていくべきだと主張した。なお、明治初期の西洋思想受容においては、中村正直がミルの『自由論』を『自由之理』として翻訳紹介したことも重要である。
問5	答え 4 間柄的存在	和辻哲郎は、人間（じんかん）という言葉が「人」と「間（あいだ）」から成り立つことに着目し、人間は孤立した個人ではなく、他者との関係性（間柄）の中で生きる存在であるとした。この独自の人間観を「間柄的存在」と呼ぶ。
問6	答え 3 南方熊楠	明治政府による神社合祀令は、一町村一神社を原則として小規模な神社を統合・廃止しようとするものであった。これに対し、博物学者・民俗学者である南方熊楠は、神社の社叢（鎮守の森）が失われることで地域の生態系が破壊され、また地域住民の伝統的な信仰や共同体が崩壊することを危惧し、書簡の送付や論説の発表を通じて激しい反対運動を行った。これは日本における先駆的なエコロジー（生態学）運動・自然保護運動として評価されている。
問7	答え 4 葉隠	江戸時代中期、佐賀藩の山本常朝が語った内容を田代陣基が筆録した書物である。本書は「武士道と云ふは、死ぬことと見つけたり」という一節で有名であり、主君への絶対的な奉公と、死を覚悟した武士の心構えを説いている。
問8	答え 4 伊藤仁斎	朱子学の説く「理」による厳格な道徳規範が、人間本来の温かい情愛を損ない、他者に対して冷酷で薄情な態度をもたらすと批判した。彼は京都の堀川に古義堂を開き、孔子や孟子の原典に立ち返ってその真意を理解しようとする古義学（古学）を提唱した。
問9	答え 2 純粹経験	西田幾多郎は、主観と客観が対立する前の、直接的で偽りのない意識の状態を「主客未分」と捉え、これを「純粹経験」と名付けた。この思想は彼の主著『善の研究』において展開され、日本の近代哲学の出発点となった。
問10	答え 2 西田幾多郎	『善の研究』を著した西田幾多郎は、主観と客観が対立する前の直接的な経験である「純粹経験」を哲学の出発点とした。彼は東洋的な無の思想を取り入れながら独自の哲学体系（西田哲学）を築き上げ、のちの京都学派の祖となった。